

横浜市立 山田小学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)

重点取組分野	令和元年度		総括	重点取組分野	令和2年度		総括	重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①互いに授業公開することで研鑽を深め、授業改善に生かし、組織的に学力向上に取り組む。日常の様子だけでなく、前年度の学力・学習状況調査の結果をもとに児童の実態を分析し、教材研究を通して育んでいきたい姿につながる手だてをしっかりとち、的確な指導ができるようにする。	①児童の実態や学力調査の結果をもとに、指導の共有を図ってきた。日々の授業が、主体的・対話的で深い学びとなるよう、重点研を通して、様々な教科での迫り方や取組を提案、検証しながら研修を進めることができた。日常的に互いの授業の情報交換をし、学年や学級に応じた指導をし、効果をあげている。	B	生きてはたらく知	①対話的に学習が行えるよう授業をデザインし、学び合うことで課題を解決していけるようにしていく。②どの教科においてもICT機器を効果的に使用し、児童の学びの一助としていく。③自分の思いをもつための時間を保障し、そのことを示す、話す、書く、描くなどの表現活動を大切にしている。	①③感染症予防対策をしながら、学習のすずめ方を工夫したり見直したりすることができた。主体的・対話的で深い学びを意識したことで、学習の効果が高まった。②ロイノートやMESHなど、研修等を通してICTの使い方を学び、授業に還元することができた。	B	生きてはたらく知	①主体的・対話的に学習が行えるよう授業をデザインし、学び合うことで課題を解決していけるようにしていく。②ICT機器を効果的に使用し、児童の学びの一助としていく。③自分の思いをもつための時間を保障し、示す、話す、聞く、書く、描くなどの表現活動を大切にいく。		
豊かな心	①よりよく生きようとする道徳的心情を養うために、子どもの実態をもとに「教科書」を活用し、全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。②縦割り活動や地域交流等を通して、自他を認め合う心、思いやりの心を育てる。③学級の実態に応じて挨拶の指導をし、毎月、学年等で振り返りの指導をする。	①③道徳の時間に学んだことがあいさつの姿勢にもあらわれているが、地域でのあいさつの姿勢には課題が残る。生活目標などの取り組みもあり、豊かな心の確認、振り返りができている。②スマイル活動などの異学年交流や、地域の方々と交流や体験活動を通し、自己有用感を実感することができた。	B	豊かな心	①子どもの実態をもとに「教科書」を活用し、全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。②縦割り活動や地域交流等を通して、自他を認め合う心、思いやりの心を育てる。③家庭や地域と連携し、進んで挨拶ができるように、日常的にあいさつ運動に取り組む。④人権週間を設け、授業等を通して人権意識を高める。	①②感染予防のため、授業公開や縦割り活動は行わず、学級動画配信をしたり、ズームを活用して他学年との関わりをもつ活動を行った。③挨拶を進んでできるように教師から声をかけるようにした。④絵本の読み聞かせを通して自分について考えるきっかけを作った。前向きな考えをもつことができた。	B	豊かな心	①道徳の授業の公開を行う。②授業での主体的・対話的な学びや行事などを通して、できた、わかったなどの成功体験を積み、自尊感情を育てる。③家庭や地域と連携し、共に挨拶について考え、場に応じた挨拶ができるようにする。④人権週間で、授業等を通して自他を大切にすることを育てる。		
健やかな体	①年間を通じ、体育の授業やパワフルタイム等を活用し、一校一実践運動の綱を使った運動を通して、全校で体力づくりに取り組む。全校共通縄跳びカードを作成し、継続的な取組とする。②一人ひとりがよりよい生活習慣を築けるように、学校保健委員会を中心に活動に取り組む。	①パワフルタイムで思い切り体を動かすことは、体力の向上につながった。縄跳びによる体力の向上は、期待した通りの成果はあげられてない。②学校保健委員会で手洗い等の実践を行って、児童が正しい手洗いのしかたや清潔なハンカチを持つことや爪を短く切る意識を育てるようになった。	B	健やかな体	①1校1実践運動の綱を使った運動を通して、全校で体力づくりに取り組む。年間を通じ、体育の授業やパワフルタイム等を活用して行う。②一人ひとりに多くの運動経験をもたせたり、よりよい生活習慣を築いたりできるように、児童運動委員会や学校保健委員会を中心に活動に取り組む。	①1校1実践運動では、なわとびカードを活用し、全校で取り組むことができた。クラスごとに任されていたため、通年の活動とまではいかなかった。②全校ダンスの取組やストレッチカードの活用によって、運動に親しむ機会をつくれた。また、手洗いの習慣も身につく、健康な生活への意識も高まった。	B	健やかな体	①1校1実践運動の体ほぐし運動を通して、全校で体力づくりに取り組む。年間を通じ、中休みや体育の授業を活用して行い継続的に取り組む。②一人ひとりに多くの運動経験をもたせたり、よりよい生活習慣を築いたりすることができるように、児童運動委員会や学校保健委員会を中心に活動に取り組む。		
児童生徒指導	①いじめ防止に向け、児童情報や学校のきまり、個に応じた指導について共通理解して指導にあたる。②一人ひとりが大事にされる学級づくりをするために、「Y-Pアセスメントシート」を活用して実態把握に努め、各学級の課題に応じた社会的スキル横浜プログラムを実施する。	①いじめ防止やいじめがあった場合の対応の仕方について、共通理解できている。学校のきまりのとりえ方については、職員間でもとらえの共通認識する必要がある。②アセスメントシートを利用して、横浜プログラムを実施してきたが、より計画的に年間の取組回数を増やしていく必要がある。	B	児童生徒指導	①いじめ防止に向け、児童情報や学校のきまり、個に応じた指導について共通理解して指導にあたる。②一人ひとりが大事にされる学級づくりをするために、「Y-Pアセスメントシート」を活用して実態把握に努め、各学級の課題に応じた社会的スキル横浜プログラムを実施する。	①いじめ防止やいじめがあった場合の対応の仕方について、共通理解できている。学校のきまりのとりえ方については、職員間でもとらえの共通認識する必要がある。②アセスメントシートを利用して、横浜プログラムを実施し児童の実態把握に生かした。来年度は、一層計画的に活用していきたい。	B	児童生徒指導	①いじめ防止に向け、児童情報や学校のきまり、個に応じた指導について共通理解し、指導にあたる。②一人ひとりが大事にされる学級づくりのために、計画的に「Y-Pアセスメントシート」を実施し児童の実態把握に努め、学級の課題に応じた社会的スキル横浜プログラムを実施する。		
特別支援教育	①療育センターや子家相などの関係諸機関との連携を進め、実践的な支援・指導につなげる。②全校TTの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備についての研修など多面的な支援体制の整備を行う。③特別支援教育の推進のために、個に応じた指導の形態を工夫する。	①外部機関と連携したり情報を共有したりすることが、日常の指導に生かされている。②③個に応じた指導の形態については、各学級様々な手立てを講じ、支援を行っている。現状に満足することなく、よりよい支援を工夫する姿勢を続けていく必要がある。環境整備に関しては研修を深める必要がある。	B	特別支援教育	①療育センターや子家相などの関係諸機関との連携を進め、実践的な支援・指導につなげる。②全校TTの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備についての研修など多面的な支援体制の整備を行う。③特別支援教育の推進のために、個に応じた指導の形態を工夫する。	①外部機関と連携したり情報を共有したりすることが、日常の指導に生かされている。②③個に応じた指導は、担任が中心に手立てを講じ支援を行っているが、ニーズに応じた特別支援教室での学習指導も行うことができた。情報共有をしてより多くの目で見ていく必要がある。	B	特別支援教育	①療育センターや子家相などの関係諸機関との連携を進め、実践的な支援・指導につなげる。②全校TTの意識を共通理解し、実態に合った指導、環境整備についての研修など多面的な支援体制の整備を行う。③特別支援教育の推進のために、個に応じた指導の形態を工夫する。		
地域連携	①生活科や総合的な学習の時間等を中心にした、地域協力者等と連携した教育活動の継続に向けて、ねらいや系統性を整理しながら教育課程の見直しをする。②学校説明会、学校づくり懇話会、懇談会等の機会や学校便り等を活用し、本校の方針や情報を発信し、地域や保護者と連携を図る。	①必要に応じて地域協力者等と連携を図っている。地域の材が豊富にある地域であるので、もっと生活科や総合的な学習で地域の方々から学ぶ機会を多くできるとよい。②ホームページをこまめに更新し、児童の取組や学校の方針について紹介し情報発信することができた。	B	地域連携	①生活科や総合的な学習の時間等を中心にした、地域協力者等と連携した教育活動の継続に向けて、ねらいや系統性を整理しながら教育課程の見直しをする。②学校説明会、学校づくり懇話会、懇談会等の機会や学校便り等を活用し、本校の方針や情報を発信し、地域や保護者と連携を図る。	①各学年で教育課程を組み直し、実践したが、コロナ禍で地域連携学習は実施できなかった。生活科や総合的な学習のカリキュラムマネジメントを行った。②感染症予防対策のため、Zoomを使った面談やYoutubeを使った授業風景動画の配信を行うなど、児童の取組を伝えることができた。	B	地域連携	①学校運営協議会で近隣校の情報を共有し、地域の教育力を生かしたり意見を反映したりしながら、学校を運営していく。②今の状況下にはふさわしい方法で学校の様子や方針等を伝える機会をつくり、保護者や地域に教育活動への理解を深めてもらう。③ホームページの充実を図る。		
								c7			
								c8			
いじめへの対応	①いじめ防止に向け児童情報や学校のきまりを職員で共通理解して指導にあたり、個に応じた指導についても職員間で共有する。②月1回、定期的に学校いじめ防止対策委員会を開催する。③いじめに関するアンケートを年2回行い、児童の様子や心情を把握する。必要に応じ教育相談も行う。	①担任・学年・専任・養護教諭・管理職がチームで対応することができた。いじめ防止やいじめがあった場合の対応の仕方が、共通理解できた。②月1回確実に開催し、以後の経過も含め、共通理解を図った。③年に数回とるアンケート結果を把握し、すぐに話を聞いたり必要な手立てを考えたりすることができた。	A	いじめへの対応	①いじめ防止に向け児童情報や学校のきまりを職員で共通理解して指導にあたり、個に応じた指導についても職員間で共有する。②月1回、定期的に学校いじめ防止対策委員会を開催する。③いじめに関するアンケートを年2回行い、児童の様子や心情を把握する。必要に応じ教育相談も行う。	①担任・学年・専任・養護教諭・管理職がチームで対応することができた。②月1回確実に開催し、以後の経過も含め、共通理解を図った。必要に応じて臨時に委員会を開き、組織的な対応をすることができた。③年に数回とるアンケート結果を把握し、教育相談を行い、必要な手立てをすることができた。	A	いじめへの対応	①児童情報や学校のきまりを共通理解して指導にあたり、個に応じた指導についても共有する。②月1回の定期開催に加え必要に応じて直ちにいじめ防止対策委員会を開く。③いじめに関するアンケートを年2回行い、児童の様子や心情を把握したり教育相談を行ったりして解決に向けて力を尽くす。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業研究を通して、教師の指導力を高める。②組織体制を生かして連携し、経験ある職員により日常的に若手指導を進め、メンターチームを中心とした研修を通して若手教員の教師力、実践力等の向上を図る。③学校運営組織が連携・協力しながら推進できるように体制づくりを進める。	①重点研では、共同研究として行うため、学年で事前研究を行い、授業者以外の教諭も教材研究を行うことができていた。②メンター研修では、経験のある職員が講師となり、職員の学び合いの場とすることができていた。③一人一人が、経験に応じた役割をもち、学年や、部会内で研鑽を積みながら実践力を身	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業研究を通して、教師の指導力を高める。②組織体制を生かして連携し、経験ある職員により日常的に若手指導を進め、メンターチームを中心とした研修を通して若手教員の教師力、実践力等の向上を図る。③学校運営組織が連携・協力しながら推進できるように体制づくりを進める。	①重点研では、教師自身の身に付けたい力に応じたテーマで研究を行った。忌憚なく意見を出し合うことで、山田小の子どもたちに寄り添った指導方法を考えることができた。②メンター研修では、経験のある職員が講師となり若手職員の指導力の向上を図ることができた。③組織が協働して学校運営を行った。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業研究や教科分担任を推進し、専門性を高めていく。②メンターチームを中心とした研修を通して協働的に指導力の向上を図る。③学校運営組織をより効果的なものにするため、連携・協力、都度改善していくようにする。④グループウェアを効果的に使用する。		
ブロック内評価後の気付き	授業研究会では、小学校職員が中学校の授業参観をすることで、授業の様子や生徒の実態などを、中学校職員が小学校の重点研の授業参観をすることで、授業や研究会の様子や児童の様子を知ることができた。その後の情報交換がないため、授業のつながりについては検証できておらず、研究会の持ち方を検討する必要がある。今年度から5部会となり加わった人権担当の取組として、障がい者スポーツ(ポッチャ、車いすバスケット)を合同で体験することで、障がい者スポーツへの理解を深めるとともに、職員との交流もできた。早めに講師を紹介してもらう必要があることを引き継がなければならない。		ブロック内評価後の気付き	コロナ禍、ブロック内の授業参観や5部会など、お互いの学校の様子を評価し合うような取組は実施できなかったが、月1回の校長ミーティングで行事や学校運営について情報交換した。その情報をもとに、それぞれの学校の特徴にあった教育活動を決め、より具体的に見直しをもつて取り組むことができた。特に、ICTについては、ZOOM体験やロイノートの活用をはじめ、家庭への情報発信の手段としてのYouTubeなど効果的な情報媒体を使うなど、ブロック内で高め合うことができた。ブロックの月1回の専任会、人権週間の取組の共有、教務主任会などは実施し、お互いの学校の取組の良さを知りブロックの参考とした。チーム学年経営を進めるためのアドバイスをいただいた。		ブロック内評価後の気付き					
学校関係者評価	外部評価で、登校中の児童のあいさつが十分ではないとの意見があるが、顔見知りの関係であれば、まちの中でもよくあいさつできていると評価していただいた。自己評価結果報告をうけて、先生方の自己評価が厳しいのではないかと意見があった。学校現場は、世の中の変化とともに様々な対応があることをご理解いただいていた。学校が地域や保護者に発信することが大切であるとともに、保護者も積極的に学校に足を運べるとよいのではないかとのお考えもいただいた。保護者や子どもへのアンケートの聞き方が、子どもにとって捉えづらく答えることが難しい印象があるので改善の必要がある。		学校関係者評価	中学校ブロック学校運営協議会において、委員の方々から様々なご意見をいただいた。子どものアンケート結果の自己肯定感が低いという分析については、質問紙の問いかけが適切なのか、という意見があった。教職員の自己評価を整理しそれを基に次年度の経営方針を早めに計画したことは評価された。ICT活用の進捗状況について、保護者への学校からの発信としての利用と、ZOOMを用いた教育活動など、現段階でできる取組状況を理解いただいた。個人情報保護、リスク回避という視点から、ブロック4校のGIGAスクール構想をサポートできるボランティア組織を立ち上げたらどうかという意見が出された。コロナ禍における運営について、教職員に対しての励ましとエールをいただいた。		学校関係者評価					
中期取組目標振り返り	日々の授業が、主体的・対話的で深い学びとなるよう、重点研を通して、様々な教科での迫り方や取組を提案、検証しながら研修を進めることができた。道徳の時間に学んだことがあいさつの姿勢にもあらわれているが、地域でのあいさつの姿勢には課題が残る。スマイル活動などの異学年交流や、地域の方々との交流や体験活動を通し、自己有用感を実感することができた。担任・学年・専任・養護教諭・管理職がチームで対応することができた。いじめ防止やいじめがあった場合の対応の仕方が、共通理解できた。年に数回とるアンケート結果を把握し、すぐに話を聞いたり必要な手立てを考えたりするこ		中期取組目標振り返り	コロナ禍ではあったが、ガイドラインの範囲内で対話的な学習や学び合いができる授業スタイルを模索し、実践してきた。また、ロイノートやメッシュの研修を行い、ICTを積極的に学習に取り入れた。いじめ防止やいじめへの対応については職員間で共通理解を図ることができており、担任や担当だけでなくチームで対応することができた。今年度は地域や保護者と直接かかわることに制限があったが、Zoomでの話し合いやYoutubeでの発信で、学校の情報や様子を伝えることができた。学校のスタンダードのとりえに少し差があったので、来年度は共通認識をもつための確認をする必要がある。		中期取組目標振り返り					

